

## テーマ:「消費者視点をもって働く HEIBの活動」

「一般社団法人 日本ヒープ協議会～ヒープ(HEIB)=Home Economists in Business(企業内家政学士)～」

日 時 : 2017年7月3日(月) 15:00～16:40

場 所 : お茶の水女子大学

参加者 : お茶の水女子大学食物栄養専攻 大学院生 大学4年生 約35名

講 座 : お茶の水女子大学大学院 食品栄養科学コース 村田教授担当講座

東京本部会員の宮木由貴子 中村尚美が講義を行いました。

### <講義内容>

#### 1. 消費者と企業と社会の関係

- ・私たちの消費行動は社会を変える力になる！ 消費者市民社会の構築のために
- ・企業が消費者に望むこと

#### 2. ヒープ協議会について

- ・日本ヒープ協議会とは？ 日本ヒープ協議会における活動とスタンス
- ・2016年度の活動と2017年度の活動テーマ

#### 3. ヒープ協議会の具体的活動成果

- ・超高齢社会における企業の取り組みの課題と展望
- 「超高齢社会における企業の消費者対応」～お客様の声を活かした取り組み33事例



### ☆いただいた感想のご紹介☆

- ・企業だけでなく消費者も社会に影響を及ぼしているということが分かった。
- ・消費者と企業の関係について深く考えたことがなかったため、講義はとても新鮮なものだった。
- ・社会に出た際には広い視点を持って消費者ニーズを柔軟に把握できる社会人を目指したい。
- ・自分のこの選択が経済に環境に影響を与えるかもしれない、という意識を持ち、“良い消費者”でありたいと思うようになった。
- ・消費者の声に応えようとして尽力しても売れて利益が出なければ成功とは言えない、企業のその兼ね合いは難しいのだろうと感じた。
- ・モノであってもサービスであっても、使い手の視点に立ち、信頼関係を構築することが何よりも大切であるということを感じました。
- ・ぜひ、将来的にはヒープの活動にも参加してみたいと思った。
- ・女性がどのように活躍できる場を作っていくことができるかによって日本の経済状況や世界での立ち位置は変わっていくのではないかと感じる。もっともっと企業と消費者の距離を縮めつつ、私たちのような女性が盛り上げていく必要があると考える。